

# “是不是”の日本語訳から見る 中日モダリティ形式の対応関係

張 惠 芳<sup>1</sup>

## 要旨

中国語の“是不是”疑問文に関する研究は数多くある。80年代以降、日本語のモダリティに関する研究の隆盛に伴い、日中モダリティ形式の対照研究も脚光を浴びてきた。日中対照研究分野において、“是不是”の対応形式は「ノデハナイカ」とされている。しかしながら、対訳コーパスや自然会話データを調査した結果、「ノデハナイカ」に訳せない“是不是”が数多く出てきた。本稿は、“是不是”の日本語訳から中日モダリティ形式の対応関係を捉えなおし、次のような結論を導き出す。プロミネンス、「文における位置」などの要素が“是不是”の多様な用法を生み出し、それに対して、文末にモダリティ形式が集中する日本語は多様な形式を以って用法をカバーする。その指摘と共に、自然会話においては形式上の対応より「表現機能」という視点から捉えた対応関係がより重要視されるべきだとも主張する。その成果は中国語教育と日本語教育の会話指導に役立つ。

【キーワード】 “是不是”疑問文 日本語訳 モダリティ形式 自然会話 表現機能

## 1. 問題提起

中国語の“是不是”疑問文に関する研究は数多くある。本稿でいう“是不是”疑問文は、次のようなものを指す。例と共に各文法構造パターンを示す。なお、“你是日语老师吗（貴方は日本語の先生ですか）”の反復疑問文である“你是不是日语老师”のようなものを対象外とする。なお、本稿における文字転写符号は注(1)を参照されたい。

- (1) 是不是 ‘你 弄坏 的？’ “是不是VP”+音節プロミネンス  
是不是 ‘あなた 壊した ノダ’  
あなたが壊したんですか。
- (2) 她 是不是 回来 了？ “是不是VP”  
彼女 是不是 帰ってくる-実現  
彼女は帰ってきたんじゃない。
- (3) 最近 天气 有点 怪怪的, 是不是？ “VP(,)是不是”  
最近 天气 ちょっと 変だ, 是不是  
最近天气がちょっと変だよ。
- (4) 昨天的蛋糕 ‘是不是 不好吃？’ “是不是VP”  
昨日のケーキ ‘是不是 おいしくない’  
昨日のケーキはおいしくないでしょう。
- (5) A：“跟你 那时候 的 反应 一模一样。” B：“是不是 啊。”“单独使用”  
A：とあなた その時 の 反応 まったく一緒 B：‘是不是-語気助詞

<sup>1</sup>立命館アジア太平洋大学（APU）客員准教授、中国浙江大学副教授

e-mail:huifang@apu.ac.jp

A:「あなたのその時の反応とまったく一緒だ。」

B:「でしょう。」

呂 (1985)、林 (1985)、邵・朱 (2005)、方 (2005) 等の研究を経て、“是不是”疑問文の文法構造、意味機能や“是不是”の「虚化」問題が次第に明らかになってきた。一方、日本語学界において、モダリティ研究の隆盛に伴い、モダリティ形式の日中対照研究も盛んに行われてきた。「ノデハナイカ」の対応形式は“是不是”<sup>(2)</sup>とされている。張 (2006)、張 (2009) 等の研究では、両者の構造と意味を中心に考察がなされている。作例や小説などからの事例に基づく分析は往々にして、“是不是”を“是不是VP”に限定してしまう傾向がある。

自然会話データ<sup>(3)</sup>を調査し、「ノデハナイカ」と“是不是”の対訳を行った結果、「ノデハナイカ」が基本的に全て“是不是”に訳せるのに対して、「ノデハナイカ」に訳せない“是不是”が数多く出てきた。対訳コーパス<sup>(4)</sup>を調査しても同じ結果である。それは、なぜだろうか。中国語会話に現れた“是不是”疑問文を日本語で言う際、どういう表現が適切であろうか。

筆者は長年、日本語モダリティ形式の会話における表現機能<sup>(5)</sup>を調べてきた。本稿は“是不是”疑問文に関する中国語学界の研究成果と筆者の研究を結びつける形で、“是不是”の日本語訳について考察し、「用法」の他に「表現機能」も視野に入れ、「一対一」という従来の中日モダリティ形式の対応関係を捉えなおす。最後に、中国語自然会話データにおける“是不是”の日本語訳を集計し、その新たな対応関係を検証すると同時に、表現形式の使用頻度から中日会話の異同を探る。

## 2. “是不是”の日本語訳

一言に“是不是”疑問文といっても、“是不是”のプロミネンス、「文における位置」などの要素が“是不是”の多様な用法を生み出している。プロミネンスなしの“是不是”が文中に位置する場合 (“是不是VP”構造) には、二通りの対応関係が見られる。2-1節では“是不是”が焦点マーカーとして機能する場合の日本語訳を考察し、2-2節では「肯定への傾き」を表す“是不是”疑問文を取り上げる。2-3節ではプロミネンスなしの“是不是”が文末に位置する場合 (“VP(,) 是不是”構造) を考える。2-4節では、“是不是”がプロミネンス付きの場合について調べる。

### 2-1 “是不是”が焦点マーカーとして機能する場合

中国語の疑問文に関する本格的な研究は1940年代の《中国文法要略》(呂叔湘) から始まり、呂 (1985) では“是不是”が疑問の焦点マーカーであると指摘している。

(6) A: 是不是 你明天到车站去买票?

B: 你是不是 明天 到车站去买票?

C: 你明天 是不是 到车站去买票?

D: 你明天到车站去 是不是 买票? (呂1985:244、下線は筆者)

(6)を日本語に訳すと、「ノ（ダ）カ」文になる。

- (7) A: あなたが明日駅へチケットを買いに行くのか。  
 B: あなたは明日駅へチケットを買いに行くのか。  
 C: あなたは明日駅へチケットを買いに行くのか。  
 D: あなたは明日駅へチケットを買いに行くのか。 (筆者訳)

中国語では、疑問の焦点をマークする場合、“是不是”の位置とその直後の音節のプロミネンスという二つの手段が用いられる。一方、日本語では「ノ（ダ）カ」が文末にしか来ないがゆえに、形式の位置移動という有標手段は用いられない。但し、(7A)のように、「あなた」が焦点となる場合、プロミネンスと共に、「総記」<sup>(6)</sup>の「ガ」が用いられる。中国語は語順、日本語は膠着形態素という類型論的な特徴でもある。(8)と(9)は実際の対訳例である。

- (8) 老江, 告诉我, 你怎么又做起学生工作来了? 是不是你亲自来领导我们? / 江さん、ちょっと教えてよ。なぜまた学生関連の仕事をやり始めたの? あなたが直接、わたしたちを指導してくれるの↑  
 (9) 你为什么流浪? 是不是想学高尔基? / おじさんはどうして流れ歩いたの? ゴーリキーのまねをしたかったの↑

焦点マーカー説について、林(1985)は、“是不是”が文末に位置する場合は当てはまらないと指摘している。対訳例をよく観察してみると、“是不是”が文末に来る場合だけでなく、文頭や文中に来る場合も、必ずしも焦点マーカーとして機能するとは限らない。

- (10) 是不是你招来的? / (a) おまえが手引きしたのか? / (b) おまえが手引きしたんじゃない?  
 (11) 你是不是有为难的事情? / (a) 何か困ったことでもあるのか? / (b) 何か困ったことでもあるんじゃない?

(10)と(11)をニュートラルな疑問文と理解する場合は(a)のように訳し、日本語の「ノ（ダ）カ」文と対応する。「肯定への傾き」を持つ文として理解する場合は(b)のように訳し、日本語の「ノデハナイカ」文と対応する。次節では、(b)の場合を詳しく見る。

## 2-2 「肯定への傾き」を表す“是不是”疑問文

邵・朱(2005)は曹禺、老舍、方方、高行健、王安忆、王朔の作品計92万字のデータを調べた結果、“是不是VP”の用例で「肯定への傾き」を持つものは全体の92% (186/202)を占めていると指摘している。

- (12) 她问我, 是不是晶晶到那个团后不太顺心? / 彼女は私に聞いた。晶晶はその団に入っ

てからあまりうまくいっていないのではないかと。

- (13) 你们是不是也常受他的欺负? / あなたたちもよく彼にいじめられているんじゃない。  
(邵・朱2005:266・273、訳は筆者)

“是不是”の対応形式とされている「ノデハナイカ」も「肯定への傾き」を持っている<sup>(7)</sup>。

- (14) 雨が降っているんじゃないか。

- (15) ね、あなた、無理してるんじゃない? (安達1999:23・25)

(16)と(17)は実際の対訳例である。

- (16) 満屯, 你们长工的生活是不是比过去好多了? / 満屯, おまえたち作男の暮らしは、昔に比べて、ずっとよくなってるんじゃない↑

- (17) 晓燕, 你是不是听了什么人的挑拨了? / 晓燕, あなただれかに、そそのかされてるんじゃないの↑

形態的にも意味的にも両形式がきれいに対応しているように見える。しかし、(18)を見てわかるように、「ノデハナイカ」に訳された日本語の文は文法的に間違っていないが、このような場面では語用論的に不適切となる。それはなぜだろうか。

- (18) 老师, 您是不是也去杭州啊?

日本語訳: \*先生も杭州へいらっしゃるのではありませんか。

張(2009a)では、自然会話データを調査した結果、「ノデハナイカ」の使用頻度が非常に低く、特に、「確認用法」<sup>(8)</sup>としての使用頻度はゼロに近いという言語事実を指摘している。それは「ノデハナイカ」の「命題に関する推測」という基本的意味に起因していると述べている。その研究結果は“是不是”と「ノデハナイカ」の語用における非対応を解釈できると思われる。即ち、同じく「肯定への傾き」即ち「推測」の意味を持つ形式として、中国語の“是不是”が目上の人に対しても使えるのに対し、日本語の「ノデハナイカ」は「聞き手の私的領域」<sup>(9)</sup>に踏み込みかねないことで語用論的に使用制限がかかるのである。次のような言い方に替えたりする工夫が必要である。

- (19) 先生も杭州へいらっしゃるのでしょうか。

“是不是”の二つの用法とその日本語訳を分析した上で、もう一度、(10)の例を見てみよう。

- (10) 是不是你招来的? / (a) おまえが手引きしたのか? / (b) おまえが手引きしたんじゃない? (再掲)

焦点マーカーとして機能する場合と「肯定への傾き」を表す二つの用法は決してはっきり分かれているわけではない。例えば、「你」や「あなた」にプロミネンスを置きそれを焦点としながらそれに関する「肯定への傾き」を表すことも十分可能である。それは、日本語の「ノ（ダ）カ」と「ノデハナイカ」の関連性を物語っており、中国語の“是不是”用法の連続性をも表している。但し、「焦点マーカー」から「肯定への傾き」を表す命題目当てのモダリティ形式へと移行することは、“是不是”の「虚化」の第一歩である。それに対して、日本語は、異なる形式が異なる用法を担うのである。「ノデハナイカ」には始終命題目当ての「推測」の意味が付きまとい、聞き手目当ての用法への移行には程遠いが、“是不是”の「虚化」はこれから述べるように、どんどん進んでいくのである。

会話では、“VP(.)是不是”という形式がよく見られる。邵（1996）でも指摘があったように、その形式はVP部分の内容に関して相手に同意や証言を求めたりするのによく用いられる。次節では、その形式を取り上げる。

### 2-3 プロミネンスなしの“VP(.)是不是”疑問文の日本語訳

“是不是”に関して、方（2005）は四つの用法があると指摘している。A、“是不是VP”形式で、焦点マーカーとして機能する。B、“是不是VP”形式で、命題目当ての疑問を表す。C、“VP是不是”形式で、聞き手目当ての疑問を表す。D、“VP,是不是”と単独使用の“是不是”形式で、ディスコースマーカーとして機能する。AとBはそれぞれ2-1節と2-2節で述べた用法で、CとDは方（2005）の新たな見地で“是不是”の「虚化」問題の指摘と共に、“是不是”疑問文に関する研究を大きく前進させた。方（2005）では次のように述べている：“是不是”在共时系统中的用法差异，体现了语法化过程中的交互主观化所涉及的语义-语用相互关联的单向性路径中的各个层面（方2005:33）（“是不是”の共時的体系における用法のバリエーションは、文法化のプロセスにおける間主観化が関与する、語の意味-語用という相互関連的一方向性ルートにおける各側面を体現している）。(20)はC用法で、(21)と(22)はD用法である。

(20) A：皮儿好像有点儿厚是不是？／皮がちょっと厚いようだよね。

B：不厚啊！皮儿我觉得挺好的，太薄了反倒不好吃。／厚くないよ、私はいいと思う、薄すぎるとかえっておいしくない。

(21) A：咱是干什么的啊，咱就是听您吆喝的，领导让干嘛咱就干嘛，是不是。／私たちは何者よ、貴方の申しつけを聞いて、貴方の言うとおりにする、でしょう。

B：你这嘴要是不这么贫啊，你早当官儿了你。／口がこのように悪くなければとっくに出世したのに。

(22) A：然后＝・・・当时吃完药之后还是吐。／それで＝・・・その時薬を飲んだらやはり戻しちゃう

B：是不是啊。／でしょう (方2005:23-25、筆者訳)

ここで、方（2005）の研究成果を十分踏まえた上で、一つの問題点を指摘する。自然会話データにおいて、単独使用の“是不是”には常にプロミネンスが伴う。また、プロミネ

ンス付きの“是不是”が文中に現れることもある。その日本語訳を調べているうちに、プロミネンスありかなしかで訳が分かれることに気づいた。また、CとDは文単位での「用法」という枠を超え、聞き手との間主観性が問われるので、会話の流れを視野に入れた「表現機能」からの考察が求められる。表現機能とは、会話において、表現形式が使用される動機付けまたは効果のことを指す。

この節では、まずプロミネンスなしの“VP(,) 是不是”疑問文の日本語訳を考察し、2-4節では、プロミネンス付きの“是不是”疑問文を調べる。

邵(1996)も方(2005)も“VP(,) 是不是”疑問文の語用的意味を強調している。即ち、命題への疑問というよりも、聞き手にインターアクション、特に共感を求める機能のほうが強いのである。

張(2009b)では、自然会話における「ヨネ」の表現機能を調べ、次の結論を出している：「ヨネ」が共感的な会話を作り上げるために、話者は相手に共感を求めたり、あるいは、共感を示したりする。そして、共感の要求と表示が共存するという特徴がある。(23)と(24)は共感を求めるもので、(25)は共感を示すものである。

(23) JF13：食費だけだよね、あの、光熱費もかからないでしょう↑

JF14：そうそうそうそう、そういうのはかからないけど。

(24) IF06：マスコミは、厳しくしてるんだよね、なんか今色々危ないじゃん。

IF05：まあね。

(25) JF16：でも無理でしょう↑、仕事(…)

JF15：{笑いながら} そうだよね。

(張2009b:23・26・18)

「共感を求める」という共通の機能が両形式の対訳の可能性を示唆する。実際、(20)の訳もそうであるが、次の(26)、(27)も「ヨネ」が適訳である。

(26) 最近天气有点怪怪的，是不是? / 最近の天気はちょっとおかしいよね。(例(3)再掲)

(27) 这也是常有的事是不是? / そんなこともよくあるよね。(筆者訳)

但し、「ヨネ」と異なって、“是不是”は「共感を示す」場合には使わない。(25)におけるJF15の「そうだよね」は“是啊”に訳したほうが適切であろう。これは、“是不是”と「ヨネ」の相違点である。

(28) JF15：なんか「人名7名」<sup>(10)</sup>って知っている↑、「人名7名」

JF16：うん、知ってる、あの可愛い子ね↑

JF15：そうそう、可愛い。{笑いながら} チェック済み、チェック済み {大きな笑い}

JF16：可愛いよね。

JF15：あの子可愛いよね、いやっ、性格もいいよ、すごい。

(張2009b:30)

(28)において、両話者はすでに出ている「可愛い」という情報について「ヨネ」を用い

て「共感を求めたり示したり」している。共感の要求と表示が共存する好例である。(28)の「ヨネ」を“是不是”に訳すと、中国語の会話としては成り立たない。しかし、プロミネンスを伴う“是不是”だと、会話が少し自然になる。

- (29) JF16: 嗯, 知道, 那个可爱的女孩子哦?  
 JF15: 是的, 是的, 好可爱。{边笑} 验证完毕, 验证完毕 {大笑}

\*JF16: 很可爱是不是?

\*JF15: 那个女孩子好可爱是不是? 哎, 性格也好, 非常好。

JF16: 是不是啊!

JF15: 是不是啊! 哎, 性格也好, 非常好。

連続して両話者に用いられる「ヨネ」は「共感の要求と共に共感を表示する」という表現機能を持っている。“是不是”だと、「共感の表示と共に共感を要求する」という表現機能になる。即ち、「ヨネ」は「共感の表示」がメインで、“是不是”は「共感の要求」がメインとなる。それはまたなぜだろうか。次節でプロミネンスを伴う“是不是”を考察する。

#### 2-4 プロミネンス付きの“是不是”疑問文の日本語訳

方(2005)では、“是不是”がTRP(transition relevance place)に位置し、相手にターンを譲るサインだと指摘している。

- (30) 是指奖金吗? 我们可不是为那俩钱儿, 我们就是为了主持正义, 是不是, 戈玲? / ボーナナスのことか↑私たちは、お金のためにじゃなく、正義のためにやっているんだ、でしょう↑戈玲さん。(方2005:《编辑部的故事·谁是谁非(下)》、筆者訳)

その他に、以下のようなプロミネンス付きの“是不是”疑問文形式が見られる。

- (31) 昨天的蛋糕 是不是不好吃? / 昨日のケーキはおいしくないでしょう↑ (例(4)再掲)  
 (32) A: 跟你那时候的反应一模一样。/ あなたのその時の反応と全く一緒だった。  
 B: 是不是啊。/ でしょう↑ (例(5)再掲)

以上の例からもわかるように、“是不是”の位置に関係なく、プロミネンスのある文には「でしょ(う)」が適訳である。これは、“是不是”と「ダロウ」の表現機能の類似性を示唆している。

「でしょ(う)」に関して、張(2010)では次のような結論を出している:「でしょ(う)」は聞き手への「認識喚起」を通して、聞き手に確認を求め、話し手の持っている情報や主張の正確性を強調する。聞き手への問いかけ性が強い。急な下降か上昇調を取る。

- (33) F11: みんな同じに見えるよな, ああいう時って。  
F12: {笑い}  
F11: ロッカーでしょう↑  
F12: {笑い} ロッカー。  
F11: ぜんぜん違いはないでしょう↑  
F12: それ。  
F11: 駅の中でしょう↑  
F12: 中。 張 (2010:54)

張 (2012) ではさらに追究し、「でしょ (う)」の自然会話における「念押し確認用法」という新たな用法を発見した。張 (2012) において、会話の流れと「でしょ (う)」をめぐる話者の相互作用を分析し、「でしょ (う)」は聞き手の話を巻き込みながら、話し手が前の自分の話とリンクする手段として用いられるということを明らかにした。

- (34) F15: 年もそんなに変わらない↑  
F16: 十歳違うんです。  
F15: うん、十歳でしょう↑ 張 (2012:34)

張 (2010) と張 (2012) を合わせて考えると、「でしょ (う)」には次の二つの特徴があると思われる。話し手自身の主張を強調するという特徴と相手への働きが強いという特徴である。(33)と(34)を中国語に訳すと次のようになる。

- (35) F11: 看上去都一样啊, 那种情况下。  
F12: {笑}  
F11: 寄存柜'是不是?'  
F12: {笑} 寄存柜。  
F11: '是不是没有一点差别?'  
F12: 那是。  
F11: 在车站里, '是不是?'  
F12: 在里面。  
(36) F15: 年龄也差得不多吧?  
F16: 相差十岁。  
F15: 嗯, '是不是啊 (, 就十岁)?' (筆者訳)

対訳からわかるように、会話において、“是不是”と「でしょ (う)」は共通した表現機能を持っている。即ち、プロミネンスや有標なイントネーションを通して話者の主張を強調し、両方とも単独使用可能で、単独使用の場合、聞き手の話を巻き込みながら、話者が前の自分の話とリンクする手段として用いられる。

「ヨネ」との対応関係と合わせて考えると、“是不是”にプロミネンスが置かれると、「共



感の表示と共に共感を要求する」形式に変身し、日本語の場合は、モダリティ形式が豊富で、「ヨネ」で「共感の要求と共に共感を表示」し、「でしょ（う）」で「共感の表示と共に共感を要求」する。

以上で見てきたように、“是不是”は聞き手目当てのモダリティ形式へと「虚化」してきており、「ノデハナイカ」と対応しなくなっている。同じか類似した「表現機能」を持つ形式として、日本語は「ヨネ」や「でしょ（う）」など豊富な形式をもってカバーする。

## 2-5 “是不是”の日本語訳:まとめ

2-1から2-4の議論をまとめると、“是不是”の日本語訳について、次の結論が得られる。まず、プロミネンスなしの“是不是VP”構造では、直後の音節のプロミネンスと共起する場合は焦点マーカーとして機能し、日本語の「ノ（ダ）カ」と対応しており、共起しない場合は「肯定への傾き」を表し、日本語の「ノデハナイカ」と対応している。但し、前者の場合は「ノ（ダ）カ」に加えて、「総記」の「ガ」も使用される。後者の場合は「ノデハナイカ」の使用に語用論的な制約がかかり、訳す工夫が必要である。次に、プロミネンスなしの“VP(,)是不是”構造において、“是不是”は共感を求める表現機能を持ち、日本語の「ヨネ」と対応している。但し、「ヨネ」は「共感を示す」機能もあり、「共感の要求と共に共感を表示」するマーカーである。最後に、プロミネンス付きの“是不是”は、単独使用を含め、構造を問わず、聞き手に確認を求めたり、聞き手を巻き込んで話し手の主張を強調したりする表現機能を持ち、日本語の「でしょ（う）」と対応している。

対応関係を表にまとめると、次のようになる。

表1 “是不是” 疑問文の日本語訳

構造パターン	①“是不是VP”+音節プロミネンス	②“是不是VP”	③“VP(,)是不是”	④“是不是VP”	⑤“VP(,) 是不是”	⑥“ 是不是”
日本語訳	ノ（ダ）カ	ノデハナイカ	ヨネ	でしょ（う）		
階層性	焦点マーカー	命題目当てのモダリティ	聞き手目当てのモダリティ			
「虚化」プロセス	疑問性が次第に弱まり、問主観性が次第に強まる。→					

“是不是”の日本語訳から中日モダリティ形式の対応関係を捉えなおした結果、次のようなことが言える。プロミネンス、「文における位置」などの要素が“是不是”の多様な用法を生み出し、それに対して、文末にモダリティ形式が集中する日本語は多様な形式を持って用法をカバーする。“是不是”は焦点マーカー、命題目当ての疑問、聞き手目当ての疑問、ディスコースマーカーへと、疑問性が次第に弱まり、問主観性が次第に強まるという現象と並行的に、日本語の各モダリティ形式も命題目当てから聞き手目当てへと、幅広い階層性を見せている。従来の「用法」研究に、会話における「表現機能」を加えることで、表現形式の細かい意味だけでなく、両言語における表現形式の異同も詳しく捉えることができた。

第3章では、中国語自然会話データにおける“是不是”の日本語訳を集計し、その新たな対応関係を検証すると同時に、表現形式の使用頻度から中日会話の異同を探る。

### 3. “是不是”の日本語訳集計と使用頻度から見る中日会話の異同

本稿では、「ノデハナイカ」に対応しない“是不是”の日本語訳を同じか類似した「表現機能」を持つ日本語のその他のモダリティ形式に当ててみた。ここで、一つの前提を説明せねばならない。即ち、対訳を考える際、モダリティ形式内部で対応関係を捉えるという前提である。これは、本稿の結論の信憑性を保障する手立てでもある。文は命題とモダリティからなり、モダリティは命題目当てのモダリティと聞き手目当てのモダリティに分かれるという普遍原理に基づいて対応関係を捉えることで、「対応する言い方」という無限さをブロックすることができる。一方で、会話における形式の変異形を考える際、「表現機能」を導入することで、煩雑な表面現象を簡素化することができる。即ち、同じ「表現機能」を持つ似通ったモダリティ形式を原形の変異形かその周辺形式と捉え、両言語の表現形式とその「表現機能」の使用頻度を比較することで、中日会話の異同を見ることができるとはならないかと考える。

#### 3-1 自然会話における“是不是”の変異形とその周辺形式

データ3 (10組20歳前後中国人女子大生同士による391分間の雑談会話)において、“是不是”(18例)、“是不是啊”(1例)の他に、“是不↑”(1例)といった変異形と“是吧”(21例)<sup>(11)</sup>といった周辺形式が現れた。

- (37) C03: 这个是不是就 开始啦? / これって始まっているの↑  
 C04: 嗯。/ うん。
- (38) C12: 是不是她的表姐表哥什么的? / 彼女の従兄妹とかじゃない↑  
 C11: 不是, 这次是朋友。/ いえ, 今度は友達。  
 C12: 不是啊? 又换啦? / 違うの↑また替わったの↑
- (39) C06: 因为他的目的不是为这个而来, '是不是? / 彼の目的はこれじゃないから、で  
しょう↑  
 C05: 可不嘛, 所以我觉得特恶心。/ そうなのよ, だから, すごく気持ち悪いと思うの。
- (40) C06: 主要是不要熬夜, 一熬夜第二天早上爬不起来就不想去上课, '是不是啊? / 主に  
徹夜をしないこと、徹夜したら次の朝起きれなくて、学校にも行きたくない、で  
しょう↑  
 C05: 嗯嗯/うん、うん
- (41) C17: 也没听到动静是不? / 音も聞こえなかったよね / 音も聞こえなかったでしょう  
↑  
 C18: 嗯, 然后也没去问。/ うん, それで聞きに行かなかった。
- (42) C04: 我们部长是不是很亲切? / 私たちの部長は親切でしょう↑  
 C03: 嗯, 对。/ うん, そう  
 C04: 他'是不是很那个... / 彼はとてもあれでしょう↑...  
 C03: 他很亲切, 反正很亲切呗, 然后就给我信心嘛, 看到他这个实力, 我觉得只要好好做还是能做好, 就不要怕丢脸就OK了。/ 彼は親切で、とにかくとても親切よ、

それで、自信をくれたよ、その実力を見て、自分もしっかりやればいい、失敗を恐れなくてOKと思った。

C04: ‘是吧? / でしょう ↑

### 3-2 自然会話における“是不是”と“是吧”の日本語訳

データ3に現れた“是不是”と“是吧”を会話の流れに沿って日本語訳した結果は表2の通りである。

表2 会話における“是不是”疑問文の日本語訳

	ノ(ダ)カ	ノデハナイカ	ヨネ	でしょ(う)	合計
是不是	2	6	1	11	20
是吧	-	-	-	21	21
合計	2	6	1	32	41

表2からわかるように、“是不是”の場合、「ノデハナイカ」への訳例が6例見られ、一番多いのは、「でしょ(う)」への訳である。因みに、「ヨネ」への訳例は例(41)で、「でしょ(う)」に訳してもおかしくない。文末か単独使用の“是吧”の場合は、100%「でしょ(う)」と対応している。ここで注目したいのは、その使用頻度である。それは、日本語の表現形式の使用頻度と比較してみれば一目瞭然である。

### 3-3 表現形式の使用頻度から見る中日会話の異同

ここで、まず、データ1(17組20代日本人友人同士による342分間の雑談会話)とデータ2(8組50～60代日本人女性友人同士による333分間の雑談会話)における各形式の使用頻度を形式の会話における「表現機能」ごとに提示する<sup>(12)</sup>。

表3 会話における日本語各形式の使用頻度

形式	ノデハナイカ		ヨネ				でしょ(う)				
	確認要求	同意要求	確認要求	情報提供	共感表示	共感表示+共感要求	確認要求	情報提供	念押し確認		
データ1	0	23	92	58	133	146	72	43	11	578	
データ2	3	12	未統計					96	64	11	

両言語のその他のモダリティ形式、多様な対応関係など、全貌を解明しなければまだ中日会話の異同云々言えない立場ではあるが、以上の分析から、まず言えるのは、日本語の雑談会話は話者間のインターアクションを重んじ、共感的な会話を作り上げるために、様々なモダリティ形式が用いられているのに対して、中国語の雑談会話は話者間のインターアクションが少なく、話者が一方的に話すケースが多い。インターアクションを取る場合においても、“是吧”は勿論、“是不是”も聞き手に働きかけながら話し手の主張を強調する表現機能のほうが目立つ。

#### 4. 結論と今後の課題

本稿では、“是不是”の日本語訳から中日モダリティ形式の対応関係を捉えなおし、次のような結論を導き出した。プロミネンス、「文における位置」などの要素が“是不是”の多様な用法を生み出し、それに対して、文末にモダリティ形式が集中する日本語は多様な形式を以って用法をカバーする。自然会話においては、形式上の対応より、「表現機能」という視点から捉えた対応関係がより重要視されるべきだとも主張してきた。表現形式と表現機能の会話における使用頻度から、日本語は共感的な会話を作り上げるために話者間のインターアクションを表すモダリティ形式が多用されるのに対して、中国語はモダリティ形式の使用頻度が低く、一話者が一方的に話すケースが多いという現象も見られた。この成果は中国語教育と日本語教育の会話指導に役立つと思われる。

中国語にしても日本語にしても、会話におけるモダリティ形式はその他にもいろいろある。その表現機能と使用頻度を含めて、両言語の多様な対応関係を更に追及していきたい。それらを明らかにしてはじめて、モダリティ形式の対照分析を通して中日会話の仕組みを解明する道が見えてくるのである。

但し、モダリティ形式（特に聞き手目当てのもの）を、会話を通して考察することで、従来の一対一の対応関係から解放され、「同じシチュエーションにおいて中国語はどうか、日本語はどうか」を見ることは、モダリティ研究にとって欠かせない作業だと思われる。

#### 注

(1) 本稿における文字転写符号一覧：

ˊプロミネンス    ··· 0.5秒以下のポーズ    , 短いポーズ    。発話の一旦中止  
↑ 上昇調        = 音の延長        { } 説明        (···) はっきり聞き取れない部分

(2) 本稿では、日本語の表現形式の原形をカタカナで、具体的な形態を平仮名で表記する。例えば、「ノ(ダ)カ」と「のか」、「ノデハナイカ」と「んじゃない」、「ヨネ」と「よねえ」。但し、「ダロウ」に関しては、日本人女性友人同士の会話において、聞き手目当てのものはすべて「でしょ(う)」で現れているため、「でしょ(う)」で表記する。中国語の“是不是”に関しては、“是不是啊”を含め、基本的に“是不是”で現れ、“是不”をその変異形と捉え、“是吧”をその周辺形式と捉える。

(3) 本稿で使用する自然会話データは2人1組の女性友人同士による雑談で、三種類を含む：データ1：『BTS (Basic Transcription System) による多言語話し言葉コーパス—日本語会話1 (日本語母語話者同士の会話) 2007年版』(宇佐美まゆみ監修) 342分、17組20代日本人女性友人同士による。データ2：筆者が2008～2009年採集した333分、8組50～60代日本人女性友人同士による(そのうち、2組は筑波大学「応用言語学演習」受講生が採集し、筆者が確認し転写したものである)。データ3：筆者が2009年採集した391分、10組20歳前後中国人女子大生同士による。

(4) 現有の対訳例是北京日本学研究センター制作の「中日対訳コーパス」(2002)による。なお、対訳コーパスでは、「ノデハナイカ」が“是不是”に訳されていない例もあるが、筆者の判断で「訳せるかどうか」を検証した。

- (5) 表現機能とは、会話において、表現形式が使用される動機付けまたは効果のことを指す。即ち、会話の流れの中で何のためにその表現が用いられるのかということである。従来の研究において、「意味・用法」、「用法・機能」、「意味・機能」などの用語は、定義があいまいなまま、混同して使われることが多い。本稿では、次のように捉える。形式の持っている意味を明らかにすることは、言語研究の出発点であり、最終目的でもある。モダリティ形式の意味を考える際、どのレベルあるいはどの面や環境での意味なのか、先に基準を定めるべきであろう。「用法」は形式が文の中で具現化した意味で、文という条件がつく。「機能」はある用法を持つ形式が会話の中で果たす役割のことで、一定時間の会話の流れという環境での意味を指す。つまり、「用法」も「機能」も表現形式の意味の一側面に過ぎず、文か会話か、その意味の指向する環境が違うだけである。
- (6) 「総記」という概念は久野（1973）による。
- (7) 「ノデハナイカ」の「肯定への傾き」に関する議論は、安達（1999）を参照されたい。「ノデハナイカ」の具体的な用法としては、「推測用法」（推測した内容をそのまま述べる場合）、「確認（要求）用法」（推測した内容について聞き手に確認を求める場合）、「同意要求用法」（推測した内容について聞き手に同意を求める場合）などがある。いずれも“是是非”と対応しているので、紙幅の都合上、ここでは詳しく分けないことにする。
- (8) 「確認用法」とは、「確認要求用法」とも言われ、「話し手が自分の判断について相手の確認を求める」（国研1960:109）用法を指す。例えば、「お忙しいんじゃない」「いや、僕は大概役立たずなので暇なんです」（『女社長に乾杯』）という会話における「ノデハナイカ」の用法のことである。
- (9) 聞き手の私的領域と丁寧さに関する議論は、鈴木（1989、1997）を参照されたい。
- (10) 会話に現れた7人目の人物の名前のことを指す。個人情報保護のための表記法である。
- (11) 形式と表現機能の類似性を考慮し、文末に現れるか単独使用の“是吧”を“是是非”の周辺形式とする。その置き換えに関しては、二人のネイティブに確認した。
- (12) 日本語の形式に関する統計は筆者のこれまでの研究による。そのうち、引用句などに現れた「推測」を表す「ノデハナイカ」を除外した。なお、データ2では「ワヨネ」も数多く出現しているので、「ヨネ」に関する統計はデータ1のみである。

#### 参考文献(アルファベット順)

- (1) 安達太郎（1999）『日本語疑問文における判断の諸相』東京：くろしお出版。
- (2) 張恵芳（2009a）「自然会話における「確認用法」の「ノデハナイカ」の使用実態」『筑波応用言語学研究』（16）:75-86。
- (3) 張恵芳（2009b）「自然会話における「ヨネ」の意味類型と表現機能」『言語学論叢』（28）:17-32。
- (4) 張恵芳（2010）「自然会話に見られる「ダロウ」と「デハナイカ」の表現機能の違い－用法上互換性を持つ「認識喚起」の場合－」『日本語教育』（145）:49-60。
- (5) 張恵芳（2012）「自然会話に見られる「でしょう」の「念押し確認用法」」『筑波応用

言語学研究』(19):31-45.

- (6) 張興 (2006) 「「ののではないか」と“是不是”の対照研究」『日中言語対照研究論集』8:108-121.
- (7) 方梅 (2005) <疑問标记“是不是”的虚化> 沈家煊、吴福祥、马贝加 (主编) 《语法化与语法研究 (二)》18-35. 北京: 商务印书馆.
- (8) 国立国語研究所 (1960) 『話しことばの文型 (1) - 対話資料による研究 -』東京: 秀英出版.
- (9) 久野暲 (1973) 『日本文法研究』東京: 大修館書店.
- (10) 林裕文 (1985) <谈疑问句> 《中国语文》2:91-98.
- (11) 吕叔湘 (1940) 《中国文法要略》(1982年版) 北京: 商务印书馆.
- (12) 吕叔湘 (1985) <疑问·否定·肯定> 《中国语文》4:241-250.
- (13) 邵敬敏 (1996) 《现代汉语疑问句研究》长春: 东北师范大学出版社.
- (14) 邵敬敏、朱彦 (2005) <“是不是VP”问句的肯定性倾向及其类型学意义> 见徐杰 (主编) 《汉语研究的类型学视角》264-285. 北京: 北京语言大学出版社.
- (15) 鈴木睦 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現 - 日本語の丁寧さは如何にして成り立つか -」『日本語学』:58-67.
- (16) 鈴木睦 (1997) 「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」『視点と言語行動』:45-76. 東京: くろしお出版.
- (17) 张惠芳 (2009) <「ののではないか」と“是不是”的对比研究 - 以两者意义上的异同为考察对象 -> 张威·(日) 山冈政纪 (主编) 《日语动词及相关研究》:421-430. 北京: 外语教学与研究出版社.